

バスツアー中止に至ったお詫びと経緯のご報告

2024年9月1日午後に計画していた、第31回全国市民オンブズマン大阪大会のオプション企画、万博会場の工事現場見学を行うバスツアーを中止することと致しました。まずは中止をしたことにつき、参加を申し込まれた方、企画実現にご尽力いただいた関係者の皆様方にお詫びを申し上げますとともに、このような判断に至った経緯をご説明いたします。

上記バスツアーは、全国大会の番外編として、実際に万博会場に赴き、南海トラフ地震が想定される状況下で行われる万博やIRのもつリスクを参加者自身の目でみて判断することを目的とした体験企画で、大会の目玉の一つと位置づけておりました。

ところが、8月8日午後4時半過ぎ、日向灘でM7.1の地震が発生し、日南市で震度6弱を観測するとともに津波も九州から四国で観測されました。これをうけ、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を公表し、政府は、南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、揺れを感じたら直ちに避難できる態勢をとるよう呼びかけました。

巨大地震注意の呼びかけは15日に終了しましたが、気象庁の認めるとおり「大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではなく、いつ巨大地震が来るかわからないのが現実です。私達はバスツアーの企画者の立場として、南海トラフ地震が発生した場合に、ツアー参加者を安全に避難させることが可能かどうかを責任をもって検討すべき立場にあることを改めて実感しました。

ここでの重要なことは、ツアー当日に南海トラフ地震が発生するか否かではありません。そもそも地震発生時期の予想は不可能です。バスツアーの企画者の立場にある私達は、地震発生時に責任をもって参加者を安全に誘導できなければなりません。そのような観点からバスツアーのルートと大阪市のハザードマップを検討し議論しました。万博会場から安全地域への移動ルートが橋とトンネルしかなく短時間のうちに避難する経路として機能するか疑問があること、大阪市のハザードマップの内容が信頼にたるものではないことに気づきました。私たちは、ツアーの途中で巨大地震が発生した場合に、参加者を安全な場所に誘導することが極めて困難であるという結論に到達し、中止を決定した次第です。

これは団体ツアーの企画者としての判断ですから、ツアー参加予定者が個人の判断で万博会場を訪問されることを規制するものではありません。しかし一方、今後ツアーを組んで万博会場を訪れる団体や地方自治体は、私達同様、会場で南海トラフ地震に遭遇した場合に、参加者を必ず安全に避難させることができるかを責任をもって判断すべき立場にあることを指摘したいと思います。

私達がバスツアーを中止する判断に至ったこの経験は、万博やIRの自然災害リスクを当事者として考える題材でもあります。こうした経験を共有すべく、バスツアーを予定していた9/1（日）13時半-15時半に全国大会会場で「夢洲とIR続編企画 万博会場の震災リスク」を無料（ウェビナーあり）で行うことと致します。講師は藤永のぶよさんです。ドローン撮影映像やハザードマップを見ながら、意見交換します。参加は無料です。是非ご参加いただきますよう、あわせご案内いたします。

バスツアー参加を楽しみにしておられた皆様方には重ねてお詫び申し上げますとともに、全国大会本論の続編である「夢洲とIR続編企画 万博会場の震災リスク」への参加をいただきますよう、お誘い申し上げます。

2024年8月19日

第31回全国市民オンブズマン大阪大会準備担当一同